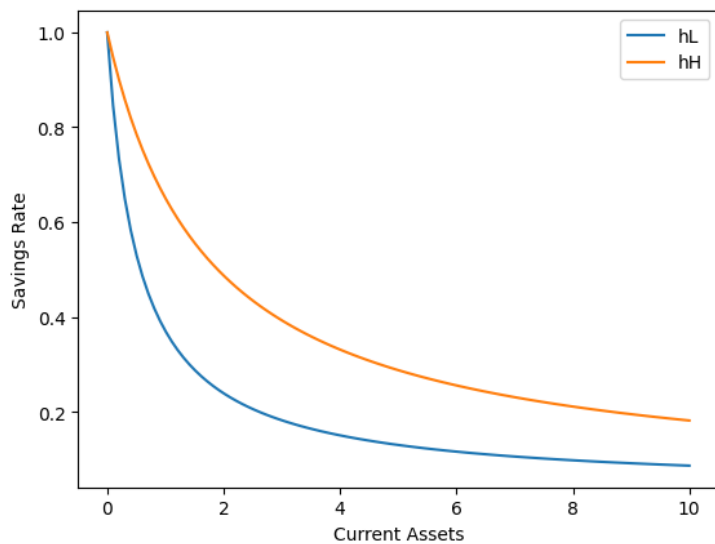
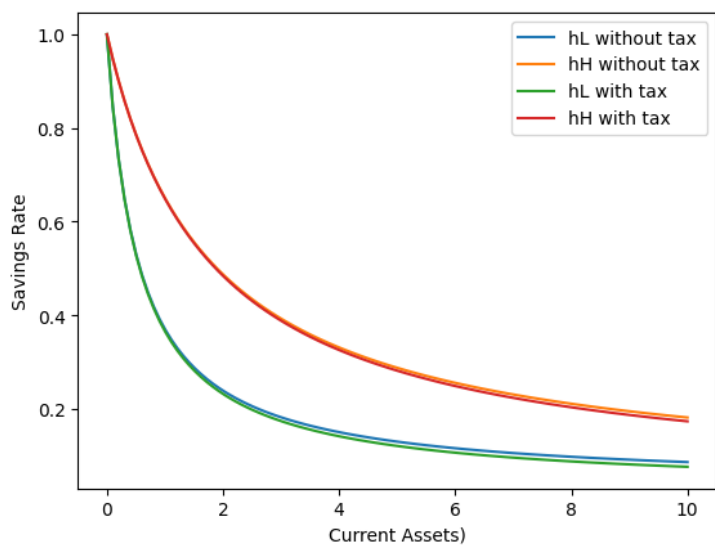


1.



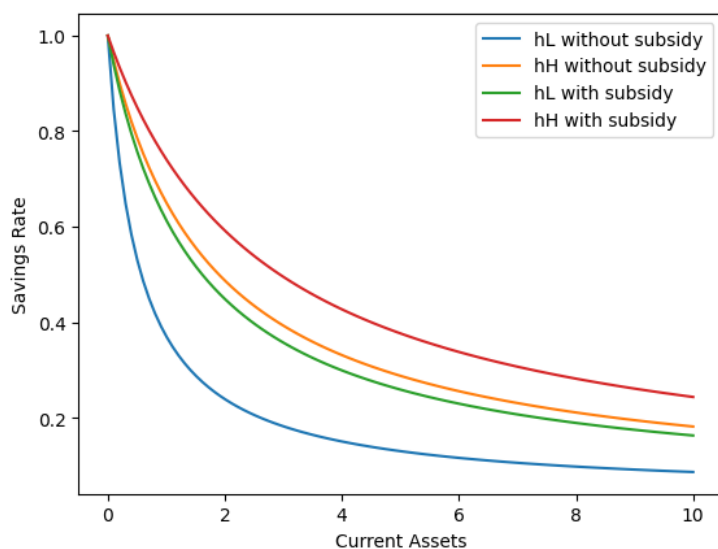
グラフより、貯蓄率は現在の資産の減少関数である。これは家計の消費行動やリスク回避の度合いによって大きく左右されるが、一般的には初期資産が少ない段階では将来の不安定性への懸念から貯蓄率が高くなり、資産が増えるとそれが緩和されるため貯蓄率が低下すると考えられる。

2.



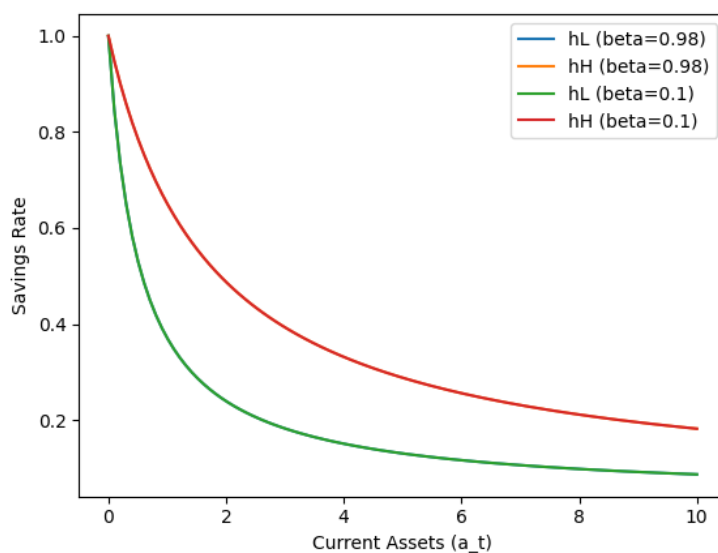
グラフより、資本所得税導入前と比べて低下する。直感的には資本所得税の導入によって将来の所得が減少、また消費の限界効用が現在のほうが高いため、現在の消費へのシフトが予想される。

3.



グラフより、貯蓄率は一括補助金導入前と比べて上昇する。直感的には家計では補助金によって将来の不確実性に備えた貯蓄が予測される。

4.



グラフでは差が見られなかったが、直感的には時間選好率が低いときは家計が現在の消費を重視するため、貯蓄率が低くなることが予測される。